

## 第3章 技術士資格を活かしたキャリア形成

技術に関する業務を行っている人達を、一般的に「技術者」と呼ぶでしょう。「技術者」とは、自然科学の成果や、工学の成果などを活用して、産業的に有効な生産技術、管理技術、測定・評価技術、マネジメント技術、物流などを創り上げる人達を指します。

このような「技術者」が経験を積んで、技術士二次試験に合格すると、技術士として登録することが認められます。また、登録しない場合では、二次試験合格者としての権利を持つことになります。ただし、登録を行っていない状態では、技術士の名称を使用することは許されていません。

本章では、「技術者」について簡単に説明し、技術士との違いを簡単にまとめることにしましょう。そして技術士登録を行って、その技術士資格をいろいろなキャリア形成に活用することについて説明しましょう。

### 3.1 技術者とは

技術とはどのようなものでしょうか。通常、「技術」という表現が使われるときには、科学技術や自然科学や工学などに限られるものではありません。最も古い「技術」とは、石器であるとされています。たまたま使いやすい形の石を道具として使ったときに、技術が生まれたのでしょう。このように、「技術」とは、何らかの成果を効率的に得るために行われる工夫や、ノウハウなどです。すなわち、「技術」とは、自然科学などに関わりなく、何らかの成果を得るためのあらゆる工夫や道具やその使い方などを示すものなのです。

技術者とはどのような人達でしょうか。一般的な「技術者」という表現には、自然科学や工学などの成果を産業的に活用して、有効に利用することを生業としている人としての意味合いが出てきます。この場合、「技術者」がエンジニアの意味をふくんでいるようになっています。「技術」はあらゆる工夫等が対象ですが、「技術者」ではその活用する範囲が科学的な成果、特に自然科学や工学の成果に限られる印象が強いでしょう。

さて、ここでエンジニアとはどのような人達でしょうか。一般的に、産業界で活躍する技術者を示す用語と思われるでしょう。最初のエンジニアは、1794年にフランスで設立されたエコール・ポリテクニックで養成されたと言われています。この当時では、エンジニアは工兵としての活躍が大きく期待されていました。その後、たくさんの科学者や工学者が産業界で活躍するようになり、